

令和4・5・6年度 新座市教育委員会委嘱
ユネスコスクールキャンディーデート校

研究紀要

質の高い教育 サスティナブルな社会をめざして

学びに向かう力の涵養



片山を愛し、「人・自然・社会」とのつながりを大切にする
ユネスコスクール片山小学校



教育長あいさつ

新座市教育委員会教育長 金子 廣志

本日ここに、令和4・5・6年度の新座市教育委員会委嘱による新座市立片山小学校の研究発表会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

さて、これからの教育には、自分自身の良さや可能性を認識し、多様な他者と協働しながら、持続可能な社会を築くことのできる力を、全ての子どもたちに育むことが求められています。学習指導要領では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童が主体的に学びを深めることを重視しています。

このような中、創立150年の歴史と伝統を誇る片山小学校におかれましては、「学びに向かう力の涵養～質の高い教育 サスティナブルな社会をめざして～」を研究主題とし、ユネスコスクールとしての使命を達成すべく、総合的な学習の時間を中心に、SDGsと関連付けた授業を展開するなど、熱心に研究に取り組んでこられました。認知能力と非認知能力の両方を育む教育を推進することで、主体的に学び、他者と協働しながら問題解決に取り組む児童の姿を実現させる取組は、これからの社会に求められる教育と言えます。

本研究は、質の高い教育を通して、児童が学びの主役として自分の考えを自由に表現し、他者の多様な視点を取り入れながら学びに向かうことで自己肯定感を高め、サスティナブルな社会を築く基盤となるものであると確信しています。

最後になりますが、本校の研究のために熱心に御指導いただきました、十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授 塚田 昭一 様、十文字学園女子大学教育人文学部文芸文化学科教授 石川 敬史 様、ユネスコ食文化創造都市白杵食楽アンバサダー 森 遼太 様をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、片山小学校 戸高 正弘 校長を中心に御努力いただいた教職員、並びに研究推進に御尽力賜りました皆様に感謝申し上げ、あいさつといたします。



校長あいさつ

新座市立片山小学校長 戸高 正弘

令和4年度より「学びに向かう力の涵養～質の高い教育 サスティナブルな社会をめざして～」を研究主題とし、職員で丸となって研究に取り組んで参りました。前年度までに研究をしてきた教科横断的なカリキュラム・マネジメント表を「学びの木」として児童自らが考えを書き込む形態に変更しました。また、学習の振り返りの視点を提示したことにより、学習方略を意識して課題解決に向かう姿が見られるようになってきました。

その間、本校の研究成果を評価いただき、大変嬉しいことにユネスコスクールキャンディーデート校として認定を受けることができ、「SDGs×ユネスコ」の視点を入れた研究に一層拍車が掛かりました。

二年次からは、目指す児童像を「学び、問い続ける児童」、「考えをアウトプットすることができる児童」と教員で共有し、大分県立海洋科学高校、京都府京丹波町立瑞穂小学校、新座市立栄小学校とのオンライン交流などとおし、取組を推進してきました。特に自分の住む地域である「新座市片山」を大切に、その思いを強くもって情報を発信していくことを教育活動の中心として据えて取り組んだ結果、本校児童の自己肯定感が着実に向上してきました。本日の発表会をご覧いただき、本校教育活動に関して、ぜひ忌憚のないご意見、ご指導をいただき、さらなる研究に活かしてまいりたいと存じます。

本日まで懇切丁寧に御指導いただきました、十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授 塚田 昭一 様、十文字学園女子大学教育人文学部文芸文化学科教授 石川 敬史 様、ユネスコ食文化創造都市白杵食楽アンバサダー 森 遼太 様、本校を支えていただきました全ての皆様に衷心より御礼を申し上げます。そしてこのような発表の機会をいただきました新座市教育委員会 金子 廣志 教育長をはじめ、新座市教育委員会の皆様に心より感謝申し上げ、あいさつとさせていただきます。

新座市立片山小学校

学びに向かう力の涵養

～質の高い教育 サスティナブルな社会を目指して～

認知能力

非認知能力

非認知能力

認知能力・非認知能力の両面を育成することで、
児童が自ら粘り強く学び、実践力を高められ、
学びに向かう力が涵養されるであろう。

成果と課題

成果 ・全国学力・学習状況調査の質問紙では、自己肯定感に関する事項が、県平均・全国平均を超える結果となり、本校の児童は主体的に学び、自分の将来をイメージしながら学びに向かっていることが分かった。

「自分にはよいところがある」 48.3% (片山) 42.6% (全国)

「将来の夢や目標を持っている」 73.6% (片山) 60.8% (全国)

・外部との連携が、児童の学習意欲を掻き立て、多くの実践的な教育活動を展開できた。

課題 ・学習のふりかえりは意識して行ってきたが、次時の学習活動へつながる新たな問いを生み出すには十分とは言えない。【ふりかえりからの問いの連続性】

・次につながる、持続可能な教育実践をさらに考え進めるべきであった。

お世話になった先生方

十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授
十文字学園女子大学教育人文学部文芸文化学科教授
ユネスコ食文化創造都市臼杵食楽アンバサダー
新座市教育委員会学校教育部長
新座市教育委員会学校教育部副部長兼学務課長
新座市教育委員会学校教育部参事兼教育支援課長

塚田	昭一	様
石川	敬史	様
森	遼太	様
杉原	浩二	様
河村	雅博	様
山崎	孝雄	様

研究に関わった本校職員

おわりに

本校は令和4年度から3年間、新座市教育委員会の委嘱を受け、「学びに向かう力の涵養～質の高い教育　サステイナブルな社会を目指して～」をテーマに研究を深めてまいりました。

まず、質の高い教育を実現するためには、子供たちに自ら学ぶ意欲をもたせ、主体的に学び続ける力を育むことが重要であると再認識しました。サステイナブルな社会を目指す教育の一環として、地域や企業との交流を深める活動を行いました。これにより、子供たちは「人・自然・社会」とのつながりを実感し、地域への愛着や責任感をもつようになりました。これらが本研究の大きな成果の一つであり、本校のかけがえのない財産になったと考えます。

まだ研究は端緒にたったばかりでございますが、このような機会を与えてくださいました新座市教育委員会、並びに常に熱心にご指導いただきました諸先生方へ厚く御礼申し上げ、結びといたします。

教 頭　橋 本 勝 明